

## 式 舌辛

散る桜を惜しむかのように続いたここ数日の花冷えも、ようやく一段落したようです。中庭では、西洋タンポポやスマレに促されたのか、気の早いツツジが、2輪ほど青空を見上げております。

この、心も踊る本日の佳き日に、国土交通省からは松山 河川 国道事務所長 「鳥羽 保之」様、本校PTA会長「大館 隆史」様、本校教育後援会長「朝村 篤」様をはじめ、数多くの皆様の御臨席を賜り、平成30年度 愛媛県立 松山中央 高等学校の入学式が、かくも盛大に挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

さて、先ほど入学を許可した350名の皆さん、入学おめでとう。

君たちは、第32期生 としてただ今、本校に入学されました。在校生はもとより、本校職員一同、君たちの入学を、心から歓迎いたします。

また、保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心より、お喜び申し上げます。そして、人生で最も美しい3年間を、本校で共に過ごしていただけることに、深く、深く、感謝申し上げます。

さて、新入生の皆さん、君たちの入学によって、本校は新たな一步を踏み出すこととなります。これまでの31年間に、本校を巣立って行かれた「11,403名」の先輩方。その先輩方が、孜々営々と築き上げてきた本校の伝統を、君たちは引継いでいかななくてはなりません。そして、君たちにしか出せない、君たちだけの色を、付け加えていく、そういう順番となりました。

しかし、君たちの出身中学校は、総数45校。33人の友達と一緒に入学してきた人達もいれば、たった一人でこの場に座っている入学生も、少なからずいます。

そこでこの入学式に当たって、君たちに、まずお願いしたいことがあります。

それは、この350名全員が、本校のどこかに、自分の居場所を、まず作ってもらいたい、ということです。一人ひとりが、どこかに自分の居場所を作ってください。そして、一人ぼっちになっている友達がいたら、貴方から声を掛け、貴方がその友達の、その時の居場所になってあげてください。

言葉は、魔力を持っています。

たった一つの言葉で、深く傷つくこともあれば、その一言で生きていく勇気をもらい、命が救われることもあるのです。感受性の強い年齢の君たちになら、すぐに理解できることでしょう。

私の尊敬する作家「芹沢光治良」氏は「神は、愛を語るために、人に言葉を与えた」と書いています。相手を傷つける言葉は、言葉本来の使い方ではありません。貴方の優しい言葉が、貴方の周囲の人たちの居場所になるような、そういう言葉の使い方をしてもらいたい。

そして、優しい言葉が行き交い、すべての生徒が居場所を持つ、そういう学年になってもらいたいと願っております。そうなれば、おのずから、君たちの、君たちにしかできない、君たちだけの色が、本校の、この 32 年目に、少しずつ塗り込められていくものと先生は、信じております。

これが校長としての、君たちへの、最初のお願いです。

保護者の皆様、私ども教職員一同は、一丸となって、お子様の教育に取り組む所存でございます。そのためには、保護者の皆様と私ども教職員とが十分に理解し合い、協力し合うようになることが大切です。何かありましたら、担任等を通じて互いに連絡し合い、御家庭と学校が両輪となって、お子様を立派な大人へと導いていきたいと願っております。どうか温かい御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、新入生の皆さん。皆さんが、本日の熱い想いを、いつまでも忘れることなく、本校で学ぶことの喜びと誇りを胸に、健康で有意義な、輝く高校生活を送ってくれることを祈念いたしまして、私の式辞といたします。

平成 30 年 4 月 9 日

愛媛県立松山中央高等学校

校長 上田 敏博